

平成26年度第2回プラネタリウム館運営協議会会議録（概要）

1. 開催日時 平成27年3月29日（日）午前10時から12時まで
2. 開催場所 文化センター3階応接室
3. 出席者 委員 森委員、松上委員、赤瀬委員、荒木委員、多賀委員
事務局 長谷川副主幹、岸下学芸員
4. 傍聴者 なし
5. 議題 ①平成26年度事業報告（公開）
②機器の更新状況およびリニューアルオープン日程について（公開）
③平成27年事業予定について（公開）
6. 配布資料 資料① 平成26年度事業報告
資料② 平成27年度事業計画
7. 会議での確認・承認事項
①H27年度事業内容についての承認。
8. 議事 以下のとおり

事務局	<p>議題①《事務局より資料①にそって平成26年度の事業報告を行う》</p> <p>26年度は消費税の増により、一般投映の市外料金が10円上がったが、特に混乱はなかった。2月15日に前投映機の最終投映があり、多くの方がお別れに来てくださった。タイムカプセルのハガキも205枚集まった。追加事業で、センター全体でバックヤードツアー、会館と共催でルロットオーケストラのコンサートを行った。コンサートは子ども夢基金を使ったルロットさん主宰の事業で、とても好評だった。次回ドームでも開催したい。</p>
●●委員	<p>プラチナアワーはシニア向けであるが、シニア人口が増えている割に、来館者数が増えていない。</p>
事務局	<p>プラチナアワーは前年度にスタートした。投映回数を前年度は木曜のみだったのを、土曜日にも増やした。リピーターの割合はとても高いが、人数は伸び悩んでいる。広報力不足ではないかと思う。</p>
●●委員	<p>広報するなら、なにかと連動した方が効果大きい。例えば、地域のプラネタリウムや星のイベントに乗っかって、一週間ごとに、あっちのイベント、こっちのイベントとつなげて来館してもらう、スタンプラリーの様な感じにしたら良いのではないか。新聞にも載ったし、今は白井を宣伝するチャンスの時ではないか。</p>

事務局	読売新聞に大きく載ったのに、現在リニューアルのため休館中だったのは、非常に惜しい。
●●委員	白井の「昼間の星を見る会」は休館中もやっているし、他ではやっていない特色ある事業である。もっと宣伝すべき。
事務局	「昼間の星を見る会」は何度か取り上げられたことがあるが、定期的に行っているものは取り上げてもらうのが難しい。イベント的なものは比較的取り上げてもらいやすい。
●●委員	イベントだけではなく、他にはない館の特色をアピールすればいい。例えば、柏のプラネタリウムも新聞に載っていたが、全てボランティアが取り仕切り、ドームも小さく（直径 6m・座席数 45 席）、手作り感満載、ハプニングも楽しんでもらうようなところをアピールしている。機械の性能だったら、よほど良くなければ、取り上げてもらえない。白井の特色を推し出すべき。そして各館がそれぞれ差別化していけば、他館と連動したイベントができるのではないか。プラネタリウム館は、たくさんあるが、結構皆違う。そこをまとめていくというのはどうか。
事務局	地域全体で盛り上げていくということでよいか。では、白井の推し出す部分は何だと思うか。
●●委員	昼間の星を見る会。投映だったら生解説。
事務局	昼間の星を見る会は月 1 の事業である。館としては、一般投映に足を運んでもらいたい。柏は月 4 回の投映で、投映自体がイベントのようになっている。白井の売りは、着々と地道に投映を行う点にもあるが、その様な点は記事になりにくい。今度のリニューアルは、記事に取り上げられるが、それは一時的なことである。この着々と地道に行っている投映を評価してもらいたい。しかし、どうしたらよいのか。目玉となる投映もあり、リピーターもついてくれるが、同じことだけをしていると確実に来館者は減っていく。様々な事業を行い、常にアクセルを踏み続けている状態である。
●●委員	白井は様々な投映を行っている点が特色であるが、職員 2 人なのだから、効率の悪い投映を切る事も大切。
事務局	白井の事業にかかる予算はほとんどない。予算のほとんどが人件費。番組にかかる予算はほとんどない。人で頑張らなければいけない。

●●委員	白井のリピーター率はどれくらいか。
事務局	アンケートで見えてくるのは、半分ぐらい。半分は初来館。リピーターさんは、投映が変わった時や、講座やイベント的な行事には来てくださるが、一般投映を何回も見に来られる方は以前より減った様を感じる。
●●委員	柏では、投映前に「初めて来た人」と手を上げてもらっているのだが、3分の1くらいが初。3分の2がリピーター。リピーター率が白井は低いのではないか。
事務局	全国的にリピーター率半分は一般的。柏のリピーター率が高いといえる。
●●委員	一般投映でリピーター率を上げるには、やはり番組に魅力がある事。何度も足を運んでもらうにはタイムリーな話題提供が必要だと思う。
事務局	タイムリーな話題も話しているが、広報等の表に出づらいところもある。広報にでるのは、資料で渡した年間事業のタイトルである。タイムリーな話題と共にお届けする〇〇と書いても、毎回書いているとやはり新鮮味がない。
●●委員	今のタイトルだけでは、あまり魅力を感じない。 例えば、「今晚の星空と共に」とかではなく、「木星の話題」とか具体的に書いた方が良い。
●●委員	ロケットの打ち上げとか、黒点の話題とか、来る人が見たいなと思う内容を表に出すようにする。
事務局	あまり地元に着すぎたタイトルで失敗したこともある。 「白井の～」とすると、一部では好評であるが、一般には受けなかったことがある。広報など1～2ヶ月前に情報提供をするものは、タイトルメインになってしまうが、ホームページやメール配信等では、興味をひくようなダイレクトな内容を伝えられるよう努力する。
議題②《事務局より機器の更新状況およびリニューアルオープン日程について説明を行う》	
機械の引き継ぎが完了し、リニューアルオープンに向け準備を進めている。 記念イベントは5つ。内容は、資料②参照。オープニングの招待者は、市内関係者と12回記念達成のリピーターさんと26年度のスターキッズクラブのメンバー等を予定している。	

●●委員	オープン時の対応は大丈夫か。
事務局	プラネタリウム職員全員出勤で対応予定。無料投映を2日に4回、3日に6回行うが、来館者が多い場合は急遽投映回数を増やすことも考慮している。ドーム86席×10回投映で800人ぐらい来てくれたらよいが、つかめない。
●●委員	それだけの人が来てくれるのなら、その人達を次に繋げていかなければいけない。
事務局	オープニング後の番組は、来館者の希望する星空を選択して見ることができるものを考えている。最初の無料投映は30分と短く、もっと見たい、来てみたいと思わせるよう努力する。
●●委員	プレス発表でも機械の説明をすると思うが、新しくなったというのが、機械が小さくなったとか、性能が良くなったとかそういうことではなく、投映をしながら、内容でどう新しいことができるようになったのかという説明にした方がよい。
事務局	新システムでは、過去未来の星空を見ることができるようになった。5月の記念番組もそれを生かした内容にしている。委員の方々はどうな星空がみて見たいか。
●●委員	2020年オリンピックの年の空。「探査機はやぶさ2」が帰還する年でもある。
●●委員	金星食。金環日食。
●●委員	探査機の位置や軌跡。
●●委員	自分が生きていないようなずっと未来の空。何万年先とか。
事務局	ステラと組み合わせれば星座の形が変わるのも見ることができる。
●●委員	歴史とその時の空。過去の空も見て見たい。〇〇さんの見ていた空とか。
事務局	参考にしたい。
	議題③<事務局より資料②にそって平成27年度の事業計画について説明> 27年度は更新した機械の賃借料分が増えたが、事業費は大幅に減。オープニング用の予算は全くない。今年度もより多くの来館者に来てもらえるよう努

	力する。しかし、周りに娯楽施設も増え、趣向も多様化している中、プラネタリウムへ足を向けてもらうのは年々難しくなっている。
●●委員	プラネタリウムはその市町村の人口の 10%前後の来館者数があれば良いともいわれているので、2万人前後をキープしている白井は頑張っている。
事務局	名古屋や大阪、スカイツリーの天空等、突出しているところはあるが、全国的にそのとおりである。しかし、やはり一般投映の来館者数をどうにかもっと増やしていきたい。キャラクター番組等にわっと人が集まるのは確かだが、値段も非常に高く、白井の予算ではとても無理。
●●委員	夏休みの番組は決まっているのか。
事務局	新システムで全天周投映が可能となったので、投映期間、回数が限定されるが、全天周の人気番組で考えているものがある。
●●委員	素敵な番組でも、タイトルだけだとやはり人は呼べないので、ポスター等画像での宣伝をしっかりしてほしい。お金がかかってもつまらない番組はたくさんあるし、なくても手作り感を表にだして、人を呼ぶこともできる。以前千葉市で「星空お化け屋敷」というのをやったが、これは名前だけでたくさん人を呼ぶことができた。そういう路線で進んだらどうか。
事務局	白井はすでに、夏休み以外すべて手作りで、その路線である。題名、タイトルをもっと考慮したいと思う。
●●委員	その通りである。たとえば今度の番組タイトル「星空世界一周」は「世界の秘境を見に行こう」とか。
●●委員	世界一周するなら、最近ソーラーパネルの飛行機が世界一周に挑戦した話題があったが、ああいうのに乗っかると話題を集めるのではないか。
●●委員	親子が多いなら子どもの興味があるキャッチコピーが良い。ようかいウォッチとかゲームの世界とか子どもは大好き。
事務局	著作権でキャラクターの画像は使えないが、投映中は、人気のキャラクターの話などしている。来館した子どもには、お話で楽しませることができるとは、まずは足を運んでもらうのが重要。キャッチコピーは考えていきたいと思う。また、古典的ではあるがチラシ撒きも重要である。今回市内全小中学校、市内と近隣の年中・年長園児に約1万枚のチラシを配布しようと思っている。

	<p>花の丘公園さんはよくチラシを配布しているが、見習いたいと思う。</p> <p>ところで、幼稚園、保育園団体投映で来館した子が、親をつれてまた来館する数が減ったように感じる。子供が親を連れてくる力が以前より弱くなっているように思う。幼稚園の行事等が増えているのか。</p>
●●委員	<p>行事は増えていないが、グループで映画館等に行くのは増えている。あと、子どもの落ち着きがなくなっている様を感じる。静かにしていなければいけないプラネタリウムは親が連れて行きたくないのではないか。プラネタリウムは映画館より、敷居が高いかもしれない。</p>
●●委員	<p>話は少し変わるが、最近 CD も売れなくなってきている。では、どうするかというと、イベントをして、そのなかでグッズを販売と連動して、そうとう儲けているという。音楽だけだったらどこでも聴けるが、ここで見れない、聞けないという場所には人は集まってくる。ただ静かに聞くというのではなく、一緒に盛り上がり、参加するというのが重要なのではないか。</p>
事務局	<p>プラネタリウムでもクリスマスやライブ等、イベントの来館者は多い。しかし、毎回それを行うのは厳しい。</p>
●●委員	<p>イベントでなくても、参加できる投映が良い。</p>
●●委員	<p>季節ごとの大きなイベントに結び付けるのも良い。例えばハローウィン等でその時は仮装してきてもらうとか。</p>
事務局	<p>星と結びつけていくのが難しいところだが、努力したい。</p>
●●委員	<p>子どもの時、カップルで、親子でと、人生で3回プラネタリウムに来る、「人生3回プラネタリウム」などと言われるが、それを8回ぐらいまで増やしたい。子どもの時にここに来て楽しかったという記憶をしっかりと植えつけるのはとても大切だと思う。</p>
事務局	<p>今は、孫と一緒にと言うのもあり「人生4回」にはなっているが、努力する。27年度の事業はほぼ前年度と同様だが、新たに星空講談、七夕朗読会が加わる。「プラネタリウムの仕組みを知る講座」は更新したばかりで自分たちが機械にまだなれていないので今年には行わない。</p>
●●委員	<p>仕組みを知る講座は、プラネタリウムを実際に操作することができ、すごいと思う。しかし、今の子どもたちはそれがすごいことだとしっかりいわないと、ふ〜んで終わってしまう。時代が古いが、昔自家用車が家に来ただけでも、</p>

	<p>すごくわくわくして、楽しいことをたくさん想像してすごいことが起きるんだと感じたものだが、今の子は、なんでもすごいと思わない。やっていることを、あたり前と思わせず、今あなたはすごいことをやっているんだよ、こんなことはめったにできないんだよと言う事をしっかり伝えるのも重要。プラネタリウムがあること自体すごいことだし、すべて生解説ということだっってすごいことである。</p>
●●委員	<p>子どもたちは受け身だとだめ。いかに活動させるかが重要。星を見せただけではそれだけで終わってしまう。例えば星を見る前に、星座早見盤を自分で動かすという行為を入れるだけで、受け身だったものが、自分で合わせた星座早見盤に載っている星座を、実際にプラネタリウムで見たという感動が生まれる。</p>
●●委員	<p>学校で、何かきっかけを与えて、そこから次に進む子もいれば、それが終わればぼっぴとすててしまう子もいる。そこで次のステップに導くための指導法はあるのか。プラネタリウムも投映やイベントで消費されるだけでなく、次の投映に来館者を繋げるヒント、興味を持続させるためのコツのようなものはないか。</p>
●●委員	<p>学習の場合は、初めのきっかけで興味を持たせるという事が非常に重要。次のステップに進ませるには、今度はそれだけではだめで環境が重要。例えば星だったら、興味を持ったら、周りに星の本がたくさんあり、いつでも興味をもったら手に取れる状態になっているのが大事。環境を整えること。</p>
事務局	<p>参考にする。</p> <p>最後に更新した投映機による星空を見学して終了。</p>